小畦立て播種技術の出前指導

【中央農業改良普及センター県域普及グループ】

■　課題名

地域に合った水田大豆の安定生産技術体系の組立と普及

■　ねらい

岩手県の大豆栽培の約８割が水田転換畑への作付けで栽培されている。そのため生育初期の湿害被害を被ることが多く、年産や産地により収量や品質が安定しないことが指摘されている。そこで、県産大豆の安定栽培に向け、初期湿害を回避する播種技術の導入を推進しているところである。中でも農業研究センターが開発した「小畦立て播種栽培技術」は手軽に取り組める湿害回避播種技術として取り組む組合が年々増加している。しかし、土壌や使用する機種等によって調整が必要となる場合があり、新規で取り組む生産者から支援要請がある。そこで、各普及センター、農業研究センターと協力しながら、技術導入の支援を行った。

■　活動対象

姉体南方営農組合、稲瀬4区営農組合、農事組合法人川尻（奥州市）、
とのみ営農組合（金ヶ崎町）、小友営農組合（大船渡市）

■　活動経過

中央普及センター県域普及グループでは昨年度から、この技術に初めて取り組む生産組織を対象に、播種機の調整などの技術習得を支援する目的で、県農業研究センタープロジェクト推進室や地元の農業改良普及センターと連携し、“小畦立て播種の出前指導”を行っている。

本年度は奥州農業改良普及センター管内を中心に６組合から支援要請があった。（降雨の影響で１組合は出前指導の実施は見送り）

■　活動成果

出前指導を実施した５組合のうち４組合では全作付け面積で小畦立て播種栽培に取り組んだ。

収穫後の聞きとり調査では、本年度は天候に恵まれ生育初期の湿害の発生が少なかったものの、降雨後の様子などから効果を実感しているとの感想であった。これらの組合では、次年度も全面積で小畦立て播種栽培に取り組む意向である。

また、播種機の改良についての研究成果を紹介したところ、興味を示した組合が農業研究センターへ視察するなど、導入後の安定栽培への意欲も高まっている。

■　協働した機関

奥州農業改良普及センター、大船渡農業改良普及センター、
農業研究センタープロジェクト推進室（水田農業）

■　中央農業改良普及センター

チーム名：水田利用チーム　チームリーダー一守貴志　チーム員中野央子　執筆者：中野央子